

令和2年度使用教科用図書選定にかかる専門調査会調査結果（第3地区）

| 図画工作 | | 開隆堂出版 |
|--------------|--------------------|---|
| 総 評 | | <p>題材の内容を視覚的に捉えられるように、説明的な文章表記を極力抑え、活動例や作品例の写真のスペースを広く取り、児童の「やってみたい。」という意欲を喚起する紙面になっている。</p> <p>材料用具の扱い方や表現方法の解説にページを多くとり、ウェブページでも動画で扱い方や表現方法を調べられるようになっていて、自ら学ぶ工夫がされている。</p> <p>題材例がやや少なく、内容の領域別でみたとき、題材例の提示にやや偏りがある。</p> |
| 特に優れている点 | 1 大阪市教育振興基本計画等との関連 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「みんなのギャラリー」で「地域文化」「日本の伝統文化」を取り上げている。① ○ 活動例の提示で、児童の主体性を促す工夫・配慮がされている。③ |
| | 2 内容の取扱い | <ul style="list-style-type: none"> ○ 鑑賞題材については、各学年1題材の提示であるが、4ページにわたって記載があり、活動を深めるためのヒントが示されている。③ ○ 「造形遊び」「絵や立体、工作に表す」「鑑賞」の題材例が、それぞれ一定数示されていて、指導計画を作成する上での参考になる。②③④ ○ 児童の身近にある素材を取り上げ、興味を引く題材を多く取り入れている。① ○ 「平和」「地域」「ユニバーサルデザイン」等の視点が入り込められている。①⑤ ○ 「造形の引き出し・学びのしりょう」としてさまざまな用具の扱い方・技法についての解説がある。⑦ |
| | 3 外的要素 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年の表紙サブタイトルが、造形活動への心情面を刺激するよう工夫されている。① ○ 活動例や作品例、用具の扱い方・技法についての解説の写真が大きく、見やすい構成になっている。③ |
| | 4 構成・配列 | <ul style="list-style-type: none"> ○ P. 2～P. 4（折り畳みページ）を開くと、当該学年で取り組む題材について見通せるようになっている。② |
| | 5 資料・その他 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 携帯端末でQRコードを読み取りウェブページに接続すると、用具の扱い方についての動画を見ることができる。② |
| 特に工夫・配慮を要する点 | 1 大阪市教育振興基本計画等との関連 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 多文化共生の視点がやや薄い。① |
| | 2 内容の取扱い | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「造形あそび」の題材例が、少ない。④ |
| | 3 外的要素 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 表紙に取り上げられている児童作品が、学年の発達段階に照らして、やや幼い感じがする。① |
| | 4 構成・配列 | <ul style="list-style-type: none"> ○ ICT機器を用いた題材に工夫が必要。① ○ 児童の発達段階に合致しない題材が見受けられる。① |
| | 5 資料・その他 | <ul style="list-style-type: none"> ○ インターネット上のデジタル資料を充実させる必要がある。② |

令和2年度使用教科用図書選定にかかる専門調査会調査結果（第3地区）

| 図画工作 | | 日本文教出版 |
|--------------|--------------------|--|
| 総 評 | | <p>図画工作科の内容をバランスよく学習できるよう、題材例の数がバランスよく収められている。</p> <p>各題材をもとに学習するとき、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力（人間性等）」の観点からどのような力を発揮すればよいか明確に示され、指導者が指導しやすく、児童が学びやすく感じる構成になっている。</p> <p>説明や児童の発想例が、詳しく示されすぎているため、児童の発想・構想の幅を狭めると危惧される。</p> |
| 特に優れている点 | 1 大阪市教育振興基本計画等との関連 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「地域文化・伝統文化」「環境」「防災・安全」「平和・人権・福祉」「多文化共生」などの視点を取り入れた構成になっている。①⑤ ○ 幼小接続や小中接続のヒントになるページが設けられている。④ ○ プログラミング的思考を働かせる題材例が示されている。② ○ 見開き2ページで題材例を示し、主体的・対話的で深い学びを実現するための道筋が示されている。③ |
| | 2 内容の取扱い | <ul style="list-style-type: none"> ○ 各題材例に、資質・能力の三つの柱に基づく学習のめあてが示されており、評価の参考とすることができる。②③④ ○ 「造形遊び」「絵や立体、工作に表す」「鑑賞」の題材例が、バランスよく示されており、特に「造形遊び」の題材例が充実している。⑤ ○ 鑑賞の対象だけでなく、鑑賞の場面・活動内容についてもヒントとなる記述がある。⑥ ○ 巻末の「使ってみよう材料と用具」では、学年の発達段階に応じて取り扱う材料・用具の扱いについてくまなく丁寧に示されている。⑦ |
| | 3 外的要素 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 製本が丈夫で、表紙・裏表紙を含めた装丁が児童に親しみやすく、教科書を広げてみたいという意欲喚起を促すようになっている。① ○ 作品例や活動例の写真が、大きくて見やすく、児童にとって読みやすいように配慮されている。③ |
| | 4 構成・配列 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「造形遊び」「絵や立体、工作に表す」「鑑賞」の領域が、学年間で系統立てて構成・配列されており、6年間を通してバランスよく学習できるようになっている。① ○ 各学年の題材例の中で扱われている材料・用具、表し方等が、各学年の発達段階をふまえ適切である。① |
| | 5 資料・その他 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 写真やイラストに、多様な児童（外国ルーツの児童等）や幼児、高齢者、障がいのある人とかかわる姿を掲載し、多様性を尊重する視点で編集されている。② ○ 各学年の中ほどに掲載している「ひらめきポケット」は、児童たちの発想のヒントになる資料が多く示されている。① |
| 特に工夫・配慮を要する点 | 1 大阪市教育振興基本計画等との関連 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 活動の流れが詳しく示されている反面、児童の主体性を発揮した活動を阻む懸念がある。③ |
| | 2 内容の取扱い | <ul style="list-style-type: none"> ○ 用具や安全面の配慮についての記述がやや少ない。⑦ |
| | 3 外的要素 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 資料の色彩の鮮やかさがやや欠けるページも見受けられる。③ |
| | 4 構成・配列 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の思いを表したふきだしが多く、ともすると自由な発想の妨げになる場合も考えられる。① |
| | 5 資料・その他 | <ul style="list-style-type: none"> ○ デジタル教材との関連がわかる表示がほしい。② |

